



コテライザー本体が着火しない原因として次の項目が多くみられます。

①気温によるガスの吐出不良

②エゼクターユニットの詰まり

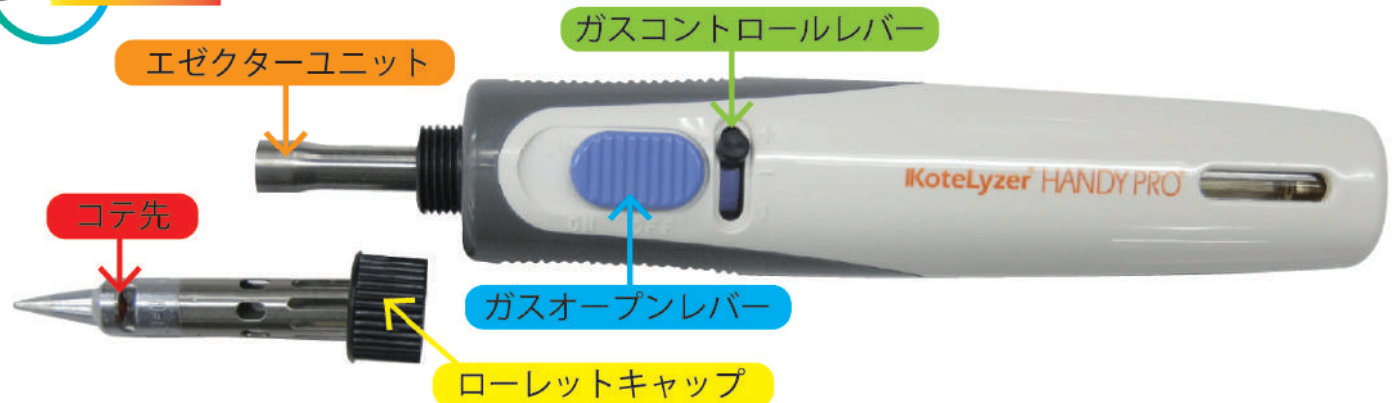
※エゼクターユニットはコンプレッサーのエアガンやエアードスターなどで噴くと詰まりが改善する可能性もあります。また、日々の詰まり防止としても効果的です。

③本体内部の火口弁（ガス吐出量調整部品）のつまり（安全の為、お客様では交換できません）

※コテライザー本体の分解・改造は禁止としています。

これは、分解・改造時に内部部品を損傷させ、ガス漏れに繋がる危険性があるためです。

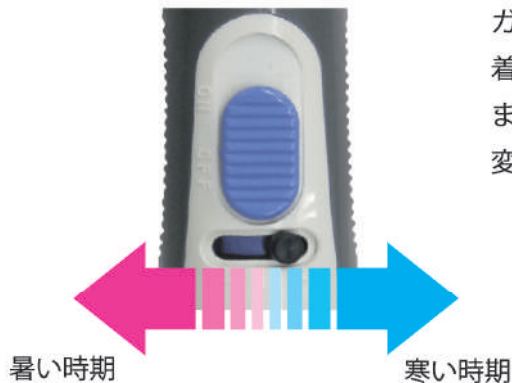
01 名称説明



02 気温によるガスの吐出不良

気温によるガスの圧力変動で、暑い時期はガスの出が多くなり、寒い時期はガスの出が少なくなり着火しづらくなります。

ガスコントロールレバーを中央より寒い時期は右側、暑い時期は左側で着火するとガスの出る量が調整されて着火しやすくなります。また、寒い時期にコテライザーに充填するガスを冬季用ガスに変更すると圧力が高くなり着火しやすくなります。



コテライザー専用ガス
品番：70-60
適正作業温度
約 10～35℃



コテライザー冬季用ガス
品番：70-61
適正作業温度
約 5～20℃

03 エゼクターユニットのつまり

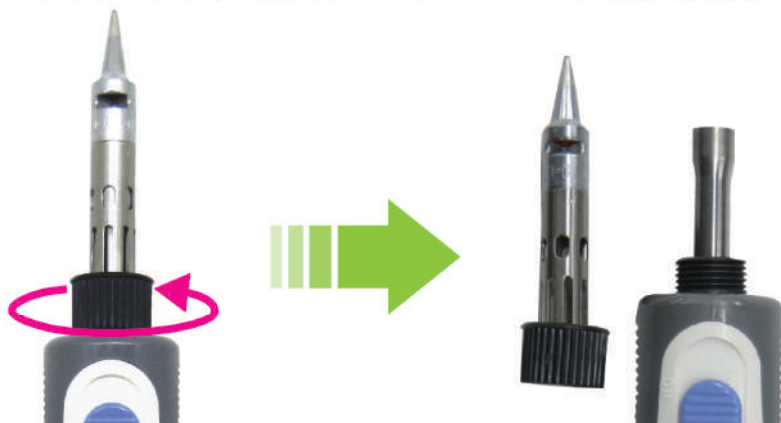
エゼクターユニット（消耗品）が詰まり始めるとガスの出が悪くなったり、全く出なくなり着火がしづらくなります。

① タンク正面の透明部分よりガスが入っている事を確認します。



本体を平行にして本体を揺らした時に半分以上の所で液体のガスが動くのが分れば十分な残量です。

② ローレットキャップを回して外し、エゼクターユニットが見える状態にします。



③ ガスオープンスイッチを上へ上げガスを ON にします、着火をせずにエゼクターユニットの先端に耳元を当てて先端から『シュー』というガス吐出音が聞こえるか確認します。



この辺りから『シュー』と音がします。

ガスの吐出音が聞こえない場合 ⇒ ④ へ

ガスの吐出音が聞こえる場合 ⇒ ⑤ へ

④ ガスの吐出音が聞こえない場合

エゼクターユニットが完全に詰まっているか、ガスの吐出量低下の可能性がありますが、どちらか見極めるために下記の様にします。

④-1

ガスオープンレバーを OFF にする



④-2

エゼクターユニットを上方向に引っ張り取外します。



④-3

下の赤○部分を耳元に近づけてガスコントロールレバーを ON にします。



※エゼクターユニットを外した状態の場合、ガス吐出音は一瞬で小さな音の為、聞き逃しに注意が必要です。

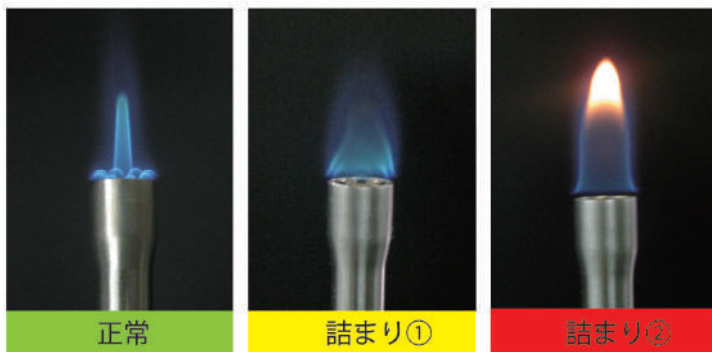
エゼクターユニットを外した状態でガスの吐出音が聞こえる 且つ、エゼクターユニットを付けると吐出音が聞こえなくなる場合は、ガスの吐出量の異常、またはエゼクターユニットの詰りが考えられる為、ガス吐出量の調整または、エゼクターユニットの交換が必要です。

5 ガスの吐出音が聞こえる場合

ガスオープンスイッチを上げた状態にして、ライターやトーチで直接着火し炎の状態を確認します。

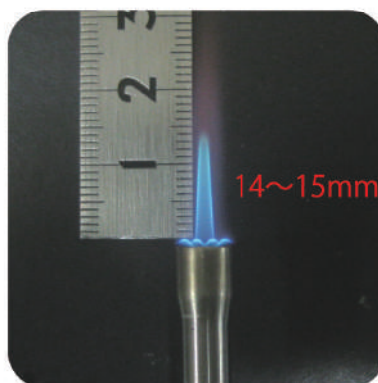
炎が青く逆三角形にキレイに出ていれば正常です。

炎が正常に出ない場合はエゼクターユニットの交換をお勧めします。



工場出荷時には使用環境温度を 20℃とした時、ガスコントロールレバーが右端 (MAX) の位置で、炎長が 14 ～ 15mmになるように調整がされています。

炎長が小さ過ぎても、大き過ぎても着火不良の原因となります。



※『ガスの吐出量の調整方法』・『エゼクターユニットの交換方法』は別ページをご覧ください。